

**2024年度 慶應 SFC 学会 成果報告書**  
**加藤文俊研究室 フィールドワーク展 XXI 綴 (すべる)**

総合政策学部 3年

清水 彩也香

1. 実施概要

展覧会名：フィールドワーク展 XXI 綴 (すべる)

会期：2025年2月7日から2025年2月9日

時間：11:00 から 20:00

会場：BUKATSUDO 横浜市西区みなとみらい2丁目2番1号 ランドマークプラザ 地下1階

ホームページ：<https://bukatsu-do.jp>

2. 目的

本展覧会は、加藤文俊研究室に所属する学生による、1年間のフィールドワーク、卒業プロジェクトの成果発表を主たる目的として、毎年開催しているものである。そもそもフィールドワークは、まちに出て行うものが多く、その成果はそのまちに開く形で共有することが望ましいが、春学期、および秋学期期間中はその機会が限られている。そのため、本展覧会は多くの人に足を運んでもらえるよう、学期外、そして学外で実施し、1年間の研究成果を外へ開くことを目的としている。さらに、展覧会を作り上げる過程は、個人やグループで取り組んできたこれまでの活動を改めて振り返り、私たちの活動や学問自体への理解を深める貴重な機会でもある。展覧会のコンセプト作りをはじめ、会場や開催日時決定、空間のデザインから広報まで、本展覧会を作り込む行為を通して、各学生が研究会の学びの根幹をなすコミュニケーションや場づくりの理解を深める。そして、会期中は来場者の方々に活動の過程や成果を共有することによって、新たな視点から各人のプロジェクトを捉え直し、相互にフィールドワークや社会学についての理解を深めることを期待している。

3. 実施成果

3日間を通して、合計263名の方に会場へ足を運んでいただいた。毎年展示を楽しみにしてくださっている方、先生や研究室メンバーの紹介で来た方、卒業生はもちろん、北海道や静岡から展覧会のために来てくださった方もいた。年齢や職業を問わず、多くの方にご来場いただいた。この展覧会はただ見てもらうだけでなく、研究室メンバーと来場者のコミュニケーションからお互いに新たな発見や気づきを得ることを大切にしている。今回も、プロジェクトの内容や研究成果について意見を交わす場面が多く見られた。研究室メンバーは会話の中で研究に対する新たな視点をいただき、行ってきた活動への理解を広げることができた。一方来場者の方々にとっても、研究会の活動や学問に対する理解を深める機会になっており、まちや日常に対する視点を新たに提案することができている。実際

に、「学生のみなさんのお話を伺いながら街、人々などを再考、再発見する楽しく興味深い展示でした。」「着眼点や表現の多様さに驚くばかり。そこに至るまでのプロセスを考えると自身の表現のあり方を見つめ直す良いきっかけになるなど思った。」などの声をいただいた。展覧会での双方向のやりとりは、互いに学びや刺激を得られる機会になることがわかった。



#### 4. 今後の課題

来場者を対象に行ったアンケートの中で、「参加型の展示方法を取り入れるとより良いと思った」「情報保障がもっとあればいい」という意見をいただいた。展覧会も21回目になり、アウトプットの型が出来始めてしまっている。様々なタイプのコミュニケーションを促す展示の形を考え続けていく必要がある。また、今年は会場が地下にあり、通りすがりの来場者が前年よりも少なかった。来場者の方々のアクセシビリティをより考慮した展覧会を来年以降は行っていく所存である。

最後になりますが、この度は慶應 SFC 学会研究助成金の対象活動に採択いただきありがとうございました。ご支援のおかげでフィールドワーク展 XXI 綴（すべる）を無事開催することができました。今後もこのような制度を積極的に活用しながら、研究活動を継続していきたいと考えております。